

分野別ベンチマーク

—心理学—

2002 年

高等教育質保証機構

1. 序

心理学は、英国の高等教育の中で最も人気のある学科のうちの1つである。最近の統計では、1999/2000の学期で英国の高等教育機関の全てのレベルでほぼ40,000人の学生が心理学を学んでいる。様々な背景から心理学は学生の興味を引いている。専攻する学生の約75パーセントは女子学生で、30パーセントは一般的な学生よりは年齢層が高めである。さらに同程度の割合の学生が従来とは異なる教育上の資格を持っている。また少数外国人もかなりの数に昇っている。

すべての状況を勘案すると、心理学を学ぶ学生に対する教育は充実しているようである。1996年から2000年の間、ほぼ全ての英国の心理学部が、QAAによる審査の対象となっている。2001年に発表された、心理学に関する学科別概要レポートにおいて、QAAは「教育の質は高い」と述べ「進級率と完了度の高いこと」に言及している。さらに背景にある学部のスタッフによる協力的で親しみやすい環境を賞賛し、さらに「従来とは異なる資格を入学時に有する学生が高い付加価値を実現している」と論じている。

心理学の学士課程は、通常3年（スコットランドでは4年）である。ほとんどの教育機関は心理学の単一専攻課程を設定している一方で、心理学を補助または副専攻科目の研究分野として別の科目を組み合わせること、および同じ比重を有する共同専攻課程の一つとして学習することも一般的である。本文書およびこの中に含まれる限界および規範基準は、単一の専攻課程に適用するものである。適当な部分集合が合同および共同課程に適用される。合同または共同課程（カリキュラム）の対象として選択できる分野は、心理学と組み合わせる学問分野といった要因や、英国心理学会から認定が得られるかなどにより教育機関により異なる。

専門的な心理学者（精神分析医）として仕事を得るためには、大学院における研究と監督（指導）を伴う研修が必要になるが、通常これは3年間を要する。このような経過を経て、例えば臨床心理学、教育心理学、職業心理学、健康心理学、カウンセリングまたは司法心理学といった心理学の専門分野の一つを専門に扱う認定精神分析医（Chartered Psychologist）になることが可能になる。専門的な心理学を扱う卒業後の研修に進むためには、卒業登録基準（Graduate Basis for Registration）の資格を付与する、最初の学位が英国心理学会から認定されなければならない。認定されていない課程の卒業生は、学会の資格試験または認定転換課程を受けることで卒業登録基準を得ることができる。認定した学士課程が継続して必要な基準を満たしていることを確認するために英国心理学会は定期的に審査を行っている。

心理学を専攻した学生は様々な職業に就くことになる。卒業生の3分の2は卒業後3ヵ月で有給の雇用を得る一方、4分の1は大学院へ進み研究を行う。かなりの人数の卒業生が最終的に専門的な精神分析医として働くことになる（ただし卒業生全体の5分の1未満であるが）。残りの卒業生の多くは、教育、工業、社会事業、メディア、情報技術、コンピューター操作、マーケティングといった分野そして政府機関で働く。

広範な基本技能の内容と厳格な教育のため心理学の教育訓練は多くの職業に優れた準備の場を提供するものとして広く認められている。学科固有の技能と知識に加えて、卒業生はコミュニケーション、数量的思考能力、チームワーク、批判的思考法、コンピューターの操作、独立した学習その他の多くの技術も習得するが、これらの技能はすべての雇用者が高く評価するものである。

2. 原則の定義

心理学の単一専攻課程の指針となる原則は、次のとおりである。

- (a) 当課程は、人の心、脳、行動と経験、そしてこれらの間の複雑な相互作用に対する科学的な理解を深めることを目的としなければならない。
- (b) 当課程は、批評的な評価を促進する形で複数の視点を示さなければならない。
- (c) 当課程の結果、理論を実生活におけるあらゆる経験と行動へ応用することについて理解が得られなければならない。
- (d) 当課程は、理論の創造と制約、さらに理論が実証的データの集約と解釈を導く方法における実証的証拠の役割の対する理解を高めるものでなければならない。
- (e) 当課程の結果、経験と行動を調査するための広範な研究技能や方法と関連する知識を取得し、独自に研究を行う能力を備わるようにならなければならない。
- (f) 当課程は、理論、研究結果および応用を正しく認識し批判的に評価する能力を身に付けるための知識を高めるものでなければならない。

3. 学問分野の本質と範囲

心理学は、人がどのように、またなぜ行動するか理解し、多種多様な状況のもとかかる知識を応用することを目的とする経験科学である。学問分野は、基本的な神経機構の観察から複雑な人間関係の分析まで広範な研究を対象としている。今日の心理学の前身は、生物学と哲学の中に見ることができる。しかし、その調査方法はこれらの学問分野に限らずその自然科学、社会科学そして数理科学をベースに発展してきたものである。

心理学は、広範な学問分野を有している。しかし、個別の研究テーマが何であれ、また方法の起源がどこにあれ、人の行動を体系的に再現可能な方法で分析し説明しようと試みるものである。理論と実証データの間にはしばしば好循環が生まれ、その結果として教育、健康、商工業その他の状況への応用という形で現れることがある。

心理学を学ぶ学生は、脳細胞が互いに伝達する方法から細胞自体の概念まで様々な話題や方法に常に触れている。英国における課程はいくつかの点で異なり、その重点もスタッフの関心や専門知識さらに利用できる資源を反映するものとなる。しかしながら第4節 a.iii は、これらの要素が学問分野の中核であることを示しており、単一専攻課程の学生はすべて履修することが期待されている。

これらの中核的なテーマを対象とする中で、学生は標準的情報、伝統的な科学調査の方法そして高度な統計分析に触れることになる。さらに、たとえば、健康とカウンセリング心理学、行動遺伝学、計算モデリング、生涯発達、談話分析、批判理論などの当該分野における刺激的な新しい展開も把握する必要がある。進化心理学、機能的脳撮像そして人間のコンピュータの相互作用などの領域における課題を議論することは、学生が心理学の学士課程が提供する将来の研究に向けた非常に多様な機会や道筋を得ることに有用である。

心理学の単一専攻の学位は、第4節 a.iii で概略を述べた基本技能を習得し、動機付けをするもの、人々の間の違い、グループ内での相互の関係を人が知覚し、思考し、感じ、行動する能力を発達させる方法に関する知識を有していることを示すことが求められる。さらに、体の病気や精神的な病が日常の経験や行動にどのように、また何故影響を与えることがあるか卒業生が理解していることを示すことも必要である。

遺伝子や環境が行動に与える個々の影響やそれらの間の相互作用も心理学のさらに別の大きな関心事である。

要約すると、心理学は扱う範囲が膨大で奥の深い、経験と行動に関する学問分野である。心理学は同系の分野で認められた方法論を自らの方法論に発展させてきた。心理学の学位は、実証的事実を統合し解釈する過去および現在の理論上の努力を評価に与えながら過去および現代の心理学に関する研究を理解することを必然的に含んでいる。このことを達成するためには、各学生は厳格な経験的方法という枠組の中で批判的思考法技術を見に付けることが必要とされる。

4. 知識と技能

4.a. 学科固有の知識

4.a.i 序文

心理学に理論上の展開と関連付けられた経験的調査という確立された伝統があり、このため他の分野にも大きく適用され、職業的実務にも深く影響してきた。このように、すでに述べたように、当該学問としての主たる分野に関する知識を得ることに加えて、心理学を専攻する学生はまた様々な研究方法やアプローチへのしっかりした知識を持ち、これらを適切に使用する証明された能力を有する必要がある。この種類についての知識とその応用は、終了基準まで全てのレベルにおける広範で進歩的な研究室での作業と実地の調査を通して獲得し実証することができる。

中核的分野の概念的知識を獲得し実証することは、学問としての実証的原理を理解することとともにいずれの学士課程にも必要な特徴である。最も重要なこととして、中核的な分野内および分野間でアイデアや実証的事実をまとめる能力が期待されていることである。また心理学の分野における知識の適用を推定し理解する能力も各々の課程の特徴である。

4.a.ii 知識の領域

学生が獲得すべき学科固有の知識を定める際に過度に規範的になることは意図するところでない。しかしながら、当該学問の中には大きく取り上げることが必要な中核的な分野がいくつかある。

さらに各学生は、現在同意が得られていないものを含み、当該学問における新しい展開に触れることが必要である。

心理学と同系の学問（例えば生物学、社会学と精神医学）との間の関連性を理解することが、当該学問から離れた分野におけるテーマ、理論、方法および研究調査結果の吸収について識別することとあわせ、重要である。たとえば、従来は個別の分野であった認知心理学と生物学的心理学から認知神経科学が出現したように各学科の中で起こる可能性のある融合（統合）を識別することにも関連性がある。

心理学に関する知識の獲得は漸進的なことであり、したがって、主な分野を学習することは学部の水準を超えて続き、最終的な学位の水準における、より専門的かつ徹底的な研究の機会が伴うものである。各学科における専門的領域を反映したより高度な水準で対象と分野がさらに変化に富んだものになることが予想される。各学位の水準でそれぞれの学生は延長したプロジェクトを完了しそのレポートを作成することでその能力と経験的方法論に熟知・精通することが期待される。

心理学の中核的な知識領域には、研究方法、生物学的心理学、認知心理学、個性と個人差、発達心理学そして社会心理学が含まれるが、各学生は同様にその他の分野にも触れることになる。これらの中核的な分野に加えて、学生は概念および歴史的な視点に立った心理学の知識を得ることも期待される。

4.a.iii 中核領域の中の主たる分野

次の主題は各分野の範囲を示すために例示するものである。これらの主題は規範となるべくすべてを網羅しているわけでもない。また対象となる主題は教育ごとに、また時の経過にあわせ変わることが認められる。これらの分野と相互の関連性の両方を知ることが、適切な応用を理解することと同様に期待される。心理学の各知識分野に倫理、理論そして実用上の研究課題が生じる。

- 生物学的心理学。例えば、行動の生物学的原理、ホルモンと行動、行動遺伝学、神経心理学、社会生物学と進化心理学
- 認知心理学。例えば、知覚、学習、記憶、思考、言語、意識と認知神経心理学
- 発達心理学。例えば、小児期、青春期と生涯を通じた発達、愛情の発達、社会的関係、認知および言語の発達、発達の社会および文化的側面
- 個性と個人差。例えば、異常な性格と正常な性格、心理テスト、知性、認識方式、感情、意欲と気分
- 社会心理学。例えば社会的認知、帰属、態度、団体課程と集団間の関係、緊密な関係と社会構成主義）。

下記の下部分野のすべてを網羅することが期待される。

- 心理学の研究手法。すなわち、研究計画、データの性質と適切な統計分析、精神測定と測定技術の研究設計、そして量的かつ質的方法。

ここでは質的な方法を広く理解すること、この中にはプロトコル分析、インタビュー、根拠となる理論と談話分析が含まれる可能性があることを留意する必要がある。

4.b 技能

4.b.i 序文

心理学は、人文科学的な研究（例えば批判的思考法、エッセイ執筆）および自然科学的な研究（仮説・検証、数量的思考能力）と関連する技能を活用し啓発する特性が広範かつ多様であることが特徴である。

さらに、学問としての本質と提供する学習機会の種類から、学生は独自の心理学課程の形式知識に支えられた基本技能を特別に組み合わせ育成することができる。例えば、コミュニケーション能力はコミュニケーションの理論を知ることによって強化することができる。また批判的思考は認識の偏りを知ることが基礎となる。さらにグループ作業はグループのプロセスに関する知識が支えとなる。

心理学を単一専攻課程で学習することで、卒業生は心理学の大学院課程（その後、専門的精神分析医または学究的な心理学者になる）に進むだけでなく様々な職業に就くための基礎となる様々な技能を獲得することができる。便宜上、これらの技能は、学科固有および基本技能に分けられてきた。学科固有の技能は学科に関する知識に密接に関連するもの、または心理学課程に不可欠な部分である。これらの技能は第4節の4.b.ii.に記載する。一方、基本技能は心理学の主題にそれほど密に関連するものではない転換可能な技能である。これらの技能は第4節の4.b.iii.に記載する。ただし、このような区分けは明確でなく極めて人為的なものであることを心に留めることが重要である。さらに、多くの学科固有の技能（研究計画、方法、測定、統計）は心理学以外の職業に直接応用されている。また多くの基本技能は専門職の心理学者の仕事には不可欠なものである。

4.b.ii 学科固有の技能

単一課程で心理学を専攻した卒業生は次のことができることが求められる。

- 心理学は広範な研究方法、理論、証拠および応用を包含するものであることを認識したうえで、複数の視点を心理学的な問題に応用すること。
- 心理学における複数の視点を通してアイデアと研究結果をまとめ、関連する問題に対して独自の心理学的アプローチを認識すること。
- 行動、心理機能および経験における一般的なパターンを識別し評価すること。
- 仮説と研究課題を提起し探求すること。
- 実験、観察、精神測定テスト、アンケート、インタビューと現地調査を含み、様々なデータ収集の手法を用いた実証的な研究を行うこと。
- 量的な方法と質的な方法の両方を用いてデータを分析すること。
- 研究結果を提示し評価すること。

- 証拠に基づく論法を用いて、心理学の異なる方法論、パラダイムと分析の方法の使用に関連する実用上、理論上および倫理上の問題を調べること。
- 専門的ソフトウェア、実験装置と精神測定器具を含む様々な心理学的ツールを使用すること。
- 独立した広範囲に及ぶ実証的研究を実施すること。この中には、研究問題を定めること、試験が可能な仮説・研究課題を策定すること、適切な方法論を選択すること、効率よく研究を計画し実行すること、倫理的問題や倫理規定・行動規範を認識すること、データについて論じる能力を発揮し効果的に結果を提示すること、従前の研究に関して研究結果を議論すること、用いた方法論と分析内容および倫理的关系を評価すること、そして必要に応じて仲間、参加者と外部機関と効果的に協力すること、が含まれる。

4.b.iii 基本技能

単一課程で心理学を専攻した卒業生は次のことができることが求められる。

- 効果的にコミュニケーションを図ること。効果的コミュニケーションには、関連した証拠に裏付けられた説得力がある議論を展開すること、そして聞き手のニーズと期待に敏感であることが含まれる。これは、小論文や学術的な報告書を作成する特定の要求を通して、さらにグループに対して口頭のプレゼンテーションをする経験を通して達成されるものである。書き言葉の標準は、文法、句読点の置き方そしてつづり方に関して許容できる標準でなければならない。
- データを理解し効果的に活用すること。このことは、卒業生に複雑なデータの集合を理解し分析し提示することを習得させる、心理学の学士課程において重要な中核をなす研究のトレーニングを通して達成することができる。
- コンピューターを使用すること。すなわち、コンピューターの使用に習熟していること。心理学を専攻する学生は、教育の早期にコンピューターに触れ、慣れ親しませ、少なくとも、ワープロ、データベースと統計ソフトウェアのパッケージを活用できる技術を身に付けること。
- 情報を効果的に検索して整理すること。心理学を専攻した卒業生は、図書館の書誌類およびコンピュータとインターネットの情報源で検出し保存した情報を集約し体系化することができるようになる。
- 一次資料を批判的に取り扱うこと。
- 共同作業に効果的に参加すること。
- 科学的に問題を解決し推論すること。心理学の学習の中核をなす研究課程を経て卒業生は研究上の問題を識別し提起すること、解決に向け代替的なアプローチを検討すること、そして結果を評価することができるようになる。
- 批評的な判断と評価をすること。課題や問題を異なる視点で捉えること、そして支持される結論に到達するため批判的で懐疑的な方法でこれらの問題・課題を評価する必要性が心理学の学士課程を通して強調され教えられる。分析の権限を増やすために類似点と一般的な原則を探ることの重要性もまた強調される。
- 心理学を専攻した卒業生は状況要因ならびに対人要因に敏感になる。行動と社会的相互作用を形成する要因の複雑さがよくわかるようになるため、問題の根本と対人間葛藤をよく認識するようになるが、さらにグループワークとチーム作りで示される個々の技能の効果を最大にするために協力を強化することの重要性により敏感にならなければならない。

- 学習者としてより独立し実際的になること。自らの学習と技能開発に責任を負うことが、学習のための学習が強調される心理学の学士課程を通して今後ますます期待される。特に、心理学の学士課程は通常、時限プロジェクトへの実際的なアプローチが必要とされる、独立した実証的な調査を完了することで終了する。

5. 教育、学習と評価

5.a 序文

上記から、心理学の学位は、独立して実証的研究を行い報告することを特に重視した、特定の学科に関する知識（学問としての中核的な分野を含む）、学科固有の技能および基本技能を対象としていることがわかる。

教育課程は上記の概略のような技能と知識を学生が獲得できるように計画しなければならない。また、学習、教育および評価方法がその目的にかなっていることを示す必要がある。

心理学では常に教育、学習そして評価の方法に相当の注意が払われてきた。さらに資料を提示し技能を開発することが可能な多種多様な方法があることが認められる。これらは固定的なものではなく、情報技術その他の媒体の使用の進歩を含む、技術と教育の進展に伴い絶えず進化して変化するものである、

しかし、学生が実務に基づいた学習（統計分析を含む）と関連する評価を大量に行うことなく、また課程（カリキュラム）の一部として心理学に関する中身のある独自の個々の研究を完了することなく心理学の理解を深めることは不可能である。当該学問の実技が量的かつ質的な方法を含む多種多様な方法論を対象としている。

特に実証的研究を行う中で学生は当該学問に関する倫理上の問題点を認識することが求められる。

5.b 教育と学習

規定（条件）を形成すべき一般的な原則があるが、この中には学術的な内容、理解と複雑性を増やす観点から課程（カリキュラム）の様々なレベルを経る進歩の概念が含まれる。知識が助成されるだけでなく、卒業生は理論、研究調査結果ならびに学問の手法に対してより批判的な姿勢をとることができるようになる。教育と学習の観点では、このことは一般的に初期の支援や指導を受けた学習からより独立した自発的な研究への変更を伴うものである。全体として、能動的な学習と基本技能と特定の技能や能力の獲得にさらに重点を置くべきである。

実習クラス、ワークショップ、講義、セミナー、個別指導、指導者の付いた講読会、自主研究、電子メール議論グループ、学生グループ、通信教育、個別プロジェクトの監督、学位論文等、教育および学習には多くの異なる形態がある。

これらのカテゴリーは相互に排他的なものではないことが認められる。例えば、講義は学生活動や対話の機会を伴うことがある。文献や発表された研究に熟知すると同様に、その他のメディアを活用することも奨励すべきである。

5.c 評価

評価方法を選択する場合は、明確に学習目的と関連付けるべきである。評価方法には、正規の試験（公開、非公開、教科書持ち込み可が可能）、多項選択式のテスト、評価小論文、活動レポート、他のレポート、情報技術の活用、事例研究、ポートフォリオ、セミナーや個々のプレゼンテーションを含む論文そして口頭のプレゼンテーションと議論における能力の正規の評価を含むことができる。課程（カリキュラム）で育成した技能をすべて示すことができるように、多様な評価方法を用いることが奨励される。評価基準は詳細に規定する必要がある、批判的思考法が徐々に発達するという期待を含めなければならない。

学習の正当性を保証し共同学習の限界を明確にするための適切な対策を講じたうえで評価項目を明示し目標と関連付けをしなければならない。

学生は、自分が当該学問の中核をなす面に精通していることを実証することができなければならない。このことは評価項目の中で通常網羅するべきである。心理学を選考する学生は、その課程を通じて一連の活動レポートを上手にまとめ上げなければならない。これらの結果、充実した内容の研究（または同等の水準の同じ学習結果を生む研究）に関する自主的で経験的なプロジェクトレポートが完成する。プロジェクトは通常、参加者から得た独自の経験的なデータの収集を伴う。特別な状況では、他のタイプの研究（例えば、計算モデリングまたはメタ分析の実施）も認められる。ただし、高水準の研究技術を厳格に適用することができることが条件となる。統計能力が各課程の一部として欠くことができない。

評価手順は障害を持った学生を不利な立場に置くものであってはならず、QAA が発表した適正実施ガイドラインに配慮すべきである。また、例えば QAA が「評価に関する適性実施規準」の中で言及しているように、機会均等の要件に細心の注意を払うべきである。

6. 基準

6.a 序文

次に示す基準（benchmark statements）は2つのカテゴリーに分けられる。限界基準は、心理学を単一課程として専攻する卒業生に最低必要な基準である。規範的基準は、心理学を専攻する代表的な学生が達成することが期待される基準である。これらの基準は、それぞれの水準（限界または規範）の卒業生が身に付け発揮することが期待される知識また技能を言い表したものである。

限界基準は、心理学を単一課程で専攻する学生に適用するものである。合同または共同学士課程の学生は、これらの標準および別の学問分野の標準の適当なサブセット（部分集合）に達することが期待されている。

6.b 学科固有の知識の基準

6.b.i 限界基準

- 学問として心理学の科学的な基礎を理解している。
- 心理機能の固有の変異性や多様性を認識している。
- 心理機能への様々な影響と第4節.a.iii.で概略を述べたように、それらが中心的な領域全体でどのように概念化されるかについて豊富な知識を持ちよく理解している。
- 多数の特殊分野または応用について見識がある。
- 統計分析を含む広範な研究パラダイム、研究方法と測定技術について知識を有している。

6.b.ii 規範的基準

- 学問として心理学の科学的な基礎、その歴史の起源、発展と限界を理解している。
- 心理機能の固有の変異性や多様性とその重要性を認識している。
- 心理機能への様々な影響とそれらが第4節.a.iii.で概説を述べたように、中心的な領域全域で概念化されるか、さらに相互に関係しているかについて体系的な知識を持ちよく理解している。
- 当該分野で先端的研究を含む、いくつかの特殊分野または応用について詳しい知識を持っている。
- 統計分析を含む広範な研究パラダイム、研究方法と測定技術について体系的な知識を有しておりその限界を認識している。

6.c 学科固有の技能の基準

6.c.i 限界基準

- 理論と証拠の関係を科学的に論じ明らかにすることができる。
- 複数の視点で物を考えることができる。
- 行動および経験において意味があるパターンを検出することができる。
- 研究上の問題を提起し展開することができる。
- 実際の活動を通して研究技術の能力を示すことができる。
- 統計に基づき論じ様々な統計方法を活用することができる。
- 適切な指示を受けて、実験に基づいた研究プロジェクトに着手、計画、実施し報告することができる。
- 倫理原則を認識しており、個人の研究、とりわけ研究プロジェクトに関して実践することができる。

6.c.ii 規範的基準

- 科学的に論じ、証拠の役割を理解し、心理学の議論について批評することができる。
- 複数の視点で物を考え、その関係を体系的に分析することができる。
- 行動および経験において意味があるパターンを検出し、その意義を評価することができる。
- 研究上の問題を提起、展開し論評することができる。
- 実際の活動を通して研究技術の大きな能力を示すことができる。

- 統計に基づき論じ様々な統計方法を自信を持って活用することができる。
- 適切な指示を受けて、実験に基づいた研究プロジェクトに着手、計画、実施し報告することができる。さらにその理論的、実用的および方法論的意義と限界を認識できる。
- 学問としての心理学の倫理的な側面を認識しており、個人の研究、とりわけ研究プロジェクトに関して実践することができる。

6.d 基本技能の基準

6.d.i. 限界基準

- アイデアや研究結果を書面で、口頭で、視覚資料を用いて伝達できる。
- 数値、統計およびその他の形式のデータを解釈し使用することができる。
- 少なくともワープロ、データベースおよび統計ソフトウェアの使用についてコンピューターに習熟していること。
- 系統だった方法で問題の解決に取り組むことができる。
- グループおよびチームにおける状況および対人的要因を認識している。
- 支持的環境において自主的研究および計画の管理を行うことができる。
- 自らの技能を評価し将来の学習のために活用する必要性を認識している。

6.d.ii. 規範的基準

- アイデアや研究結果を書面で、口頭で、視覚資料を用いて効果的かつ流ちょうに伝達できる。
- 特に複雑なデータの集合体を提示し分析する場合に、数値、統計およびその他の形式のデータを解釈し使用することができる。
- コンピューターを使いこなし自信をもってワープロ、データベースおよび統計ソフトウェアを使用できる。
- 問題点を明確にして代案を検討し結果を評価することで問題を解決することができる。
- グループおよびチームにおける状況および対人的要因に敏感で適切に対処することができる。
- 目指す目標を達成するため自主的研究および計画の管理を行うことができる。
- 自らの学習を管理し、将来の学習目的のために自分の長所と短所を反映して評価することができる。

注記：

- 1 QAA 心理学科概要報告 - Q05/2000。
- 2 QAA 実施基準 第3節： 障害を持った学生。1999年10月。
- 3 QAA 実施基準 第6節： 学生の評価。2000年5月。

これらの資料はすべて QAA のホームページで入手することができる (www.qaa.ac.uk)。